

(公印省略)

14病防第14号の11  
平成15年1月31日

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成15年1月31日

病虫害発生予察情報について(送付)

このことについて、病虫害発生予報第11号を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予報第11号  
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
冬春トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	並 並 やや多い	並 並 やや多い
冬春ナス	灰色かび病 すすかび病	並 やや多い	並 やや多い
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 灰色かび病	並 やや多い やや多い	並 やや多い やや多い
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少ない 並 やや少ない やや少ない	やや少ない 並 やや少ない やや少ない
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	少ない 並 やや少ない	少ない 並 少ない
レタス	灰色かび病 菌核病	並 やや多い	並 やや多い
野菜共通	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	やや少ない 並	やや少ない 並

【野菜】

1 トマトの灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病果率は平均0.0% (平成:0.0%、前年:0.1%)であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 比較的低温で多湿の場合に発病が多いので、ハウスの換気を図り、加温機や除湿機を運転するなどして多湿を避けることが最も重要である。

イ 茎葉が重なり合わないよう誘引・摘葉などの管理作業を適切に行い、通気性をよくする。

ウ 発病後、菌密度が高くなると防除が難しいので、発病初期のうちに防除を徹底する。

エ 被害果、被害茎葉や不用な花弁は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ ベンズイミダゾール系剤(トップジンM、ベンレート)、ジカルボキシイミド系剤(ロブラール、スミレックス)あるいはジエトフェンカルブを含有する薬剤(スミブレンド、ゲッター)は、いずれも連続使用すると薬剤耐性菌を生じやすいので、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。

2 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病葉率は平均4.2%(平年:1.9%、前年:5.8%)であり、一部のほ場で多発している。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 肥料切れにならないよう肥培管理を行う。

ウ かん水過多にならないように注意する。

エ 病勢が進展してからでは防除が困難であるので、発病前または発病初期のうちに防除を徹底する。

オ 発病葉は早めに除去し、ハウス外で処分する。

カ 防除薬剤については県野菜病害虫防除基準を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める(以下の病害虫についても同様)

3 ナスのすすかび病(平成14年11月29日発表の速報第9号参照)

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病葉率は平均31.0%(平年:17.9%、前年:32.9%)であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

イ 本病は薬剤防除だけで病勢の進展を抑えるのは困難なので、換気を行い、多湿にならないよう管理する。ただし、急激な温度・湿度変化は避ける。

ウ 草勢の低下で発病が助長されるので、着果量の調節や、適切な肥培管理を行う。

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので、曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。

カ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤

を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・シヨン散布を行う。

#### 4 キュウリのべと病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年より多い

##### (2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病葉率は平均12.8%（平年：9.2%、前年：0.2%）であり、一部のほ場で多発している。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

イ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・シヨン散布を行う。

#### 5 キュウリの灰色かび病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

##### (2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病果率は平均1.2%（平年：0.4%、前年：0.7%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿にならないように管理する。

イ 被害果は早めに除去する。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・シヨン散布を行う。

#### 6 イチゴのうどんこ病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病株率は平均1.1%（平年：2.1%、前年：0.8%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の初発生は、上位葉の裏に認められるので、裏面を随時観察し、早期発見に努める。

イ できるだけ不要な葉は葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかりやすくする。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・シヨン散布を行う。

#### 7 レタスの菌核病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

##### (2) 予報の根拠

- ア 1月5半旬調査の結果、発病株率は平均2.3%（平年：0.8%、前年：3.7%）であった。
  - イ 気象予報では、2月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。
  - (3) 防除上注意すべき事項
    - ア 発病株を放置すると、次作の伝染源となるので、被害株を認めたら、菌核をつくらないうちにほ場に持ち出し焼却処分する。
- 8 野菜共通のミナミキイロアザミウマ
- (1) 予報の内容
    - 発生量：平年・前年並
  - (2) 予報の根拠
    - ア 1月5半旬調査の結果、冬春ナスでの、寄生葉率は平均2.3%（平年：11.4%、前年：0%）で、被害果率は、平均1.1%（平年：0.2%、前年：0%）であった。
    - イ 気象予報では、2月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。
  - (3) 防除上注意すべき事項
    - ア 多発生後は防除が困難となるため、発生初期に防除を徹底する。
    - イ 各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。

## 2月の気象予報（1か月）

（予報期間 1月25日～2月24日）

2003年1月24日  
福岡管区气象台発表

### 【概要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は周期的に変化しますが、寒気の影響でぐずつく時期があるでしょう。

### 【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	10	40	50
降水量	20	50	30
日照時間	20	50	30

- < 1週目の予報 > 1月25日～1月30日  
この期間の平均気温は、平年並か低い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 2月1日～2月7日  
この期間の平均気温は、高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 2月8日～2月21日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

### 参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
6.6	70.4	121.9	5.9	6.1	7.0

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページ0とテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

なお、テレホンサービスの提供は業務の見直しにより平成14年度（平成15年3月31日）限りで廃止となります。長い間のご利用ありがとうございました。

ホームページアドレス

[www.jpnpn.ne.jp/fukuoka](http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka)

電子メールアドレス

[kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp)

テレホンサービス

092-928-6401（普通作・イグサ）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）